

武蔵野市の年次財務報告書概要 平成18年度版

§ I 一般会計の概要について

1 貸借対照表

(1) 財政状況の推移

平成18年度の資産合計は2,653億円（前年度比79億円増加）、負債合計は394億円（前年度比17億円減少）、正味財産合計は2,259億円（前年度比96億円増加）です。正味財産比率（総資産に占める正味財産の割合）は85.1%と高い水準です。

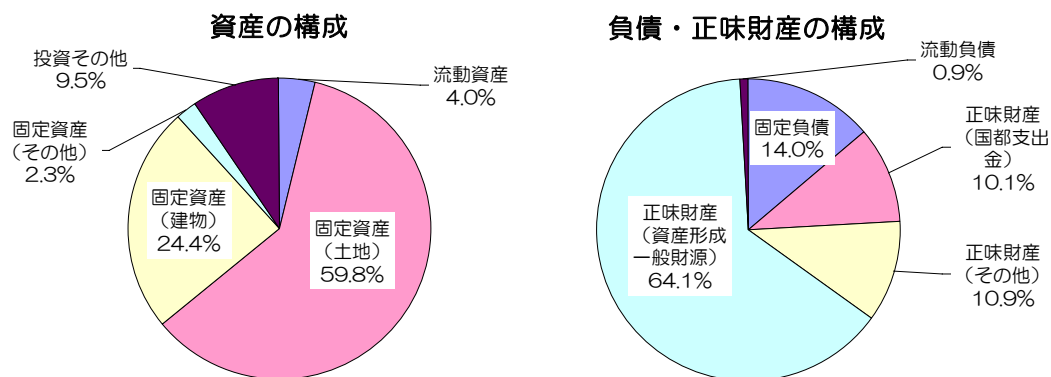
年 度	人 口 (各年度末)	資 産 (A) 百万円	負 債 (B) 百万円	正味財産 (C) 百万円	正味財産比率 (C) / (A) %	市民1人当たり (万円)		
						資産	負債	正味財産
平成14年度	131,311	238,830	41,377	197,453	82.7	182	32	150
平成15年度	131,149	247,646	41,682	205,964	83.2	189	32	157
平成16年度	132,515	251,329	41,285	210,044	83.6	190	31	159
平成17年度	133,990	257,358	41,033	216,325	84.1	192	31	161
平成18年度	134,123	265,277	39,431	225,846	85.1	198	30	168

市民1人当たりになると資産198万円（前年度比6万円増加）、負債30万円（前年度比1万円減少）、正味財産168万円（前年度比7万円増加）です。

武蔵野市		市民1人当たりで 見ると →	市民1人当たり	
資産 2,653 億円	負債 394 億円 正味財産 2,259 億円		資産 198 万円	負債 30 万円 正味財産 168 万円

(2) 資産・負債・正味財産の内訳

下の図のように、資産のうち86.5%が固定資産、また資産の59.8%が土地となっています。これは、平均地価の高い武蔵野市の特徴ともいえます。負債及び正味財産では、負債が全体の14.9%、正味財産が85.1%になっています。正味財産の比率が高いということは、資産形成について、現在までの世代ですでに負担し、将来の世代へ引き継ぐものが多いことを意味します。



(3) 固定資産明細表及び市有施設の更新コストと財源について

市有施設については、「公共施設保全計画」（平成16年度策定）に基づいて維持修繕工事を実施し、平成19年度策定予定の「学校改築計画」、「中期資産管理計画」などに基づいて計画的な維持管理を行います。また、市では施設の更新、新設や土地取得のための自己資金として、公共施設整備基金などの基金を積み立てており、平成18年度末の残高は191億円です。市としては、市有施設の更新や新設にあたっては、できる限り世代間の負担の公平性を保ち、バランスの取れた資金調達をしていきたいと考えています。

平成18年度の固定資産の増減明細は次の表のとおりです。増加は、陸上競技場、緑地や自転車駐車場などの保有土地の増加や、小中学校及び幼稚園の耐震補強工事などによる資本的支出です。

固定資産明細表

(単位：百万円)

資産の種類	前期末 取得価額	当期増加額	当期減少額	当期末 取得価額	当期末減価 償却累計額	当期償却額	差引当期末 残高
(1) 土地	156,044	2,606	0	158,650	0	0	158,650
(2) 建物・構築物	107,096	1,710	14	108,792	44,100	2,683	64,692
(3) 備品・車両	1,781	64	46	1,799	1,250	98	549
(4) 事業負担金	4,146	729	0	4,875	1,600	154	3,275
(5) 建設仮勘定	583	1,604	46	2,141	0	0	2,141
固定資産計	269,650	6,713	106	276,257	46,950	2,935	229,307

※数値は百万単位で四捨五入しているため、合計と内訳が一致しない場合があります。

(4) 市債の残高と返済能力

市債残高260億円は、収入（一般財源）431億円の0.60年分相当となり市債残高は低い水準です。

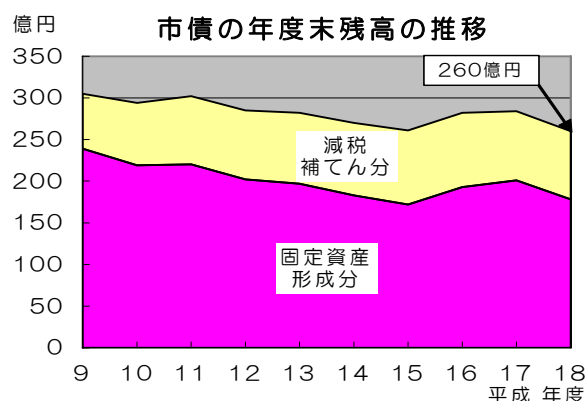
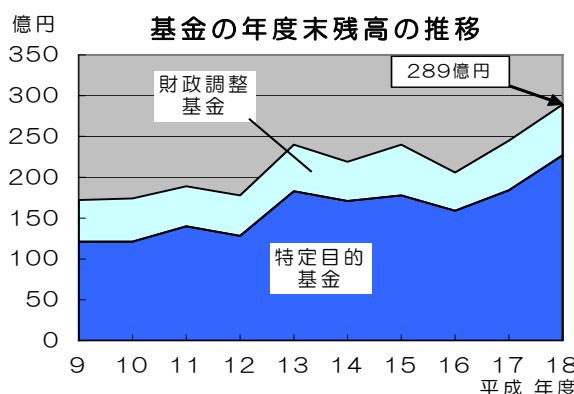
収入（一般財源）と市債残高 (千円)

	収入（一般財源）(A)	市債残高(B)	(B) / (A)
平成14年度	39,088,398	26,124,445	0.67
平成15年度	41,445,242	28,234,327	0.68
平成16年度	39,309,134	28,374,377	0.72
平成17年度	41,370,050	27,310,090	0.66
平成18年度	43,118,723	25,957,573	0.60

※収入（一般財源）は市税、地方譲与税、利子割交付金、配当割交付金、株式等譲渡所得割交付金、地方消費税交付金、自動車取得税交付金、地方特例交付金、地方交付税及び交通安全対策特別交付金の合計額としています。

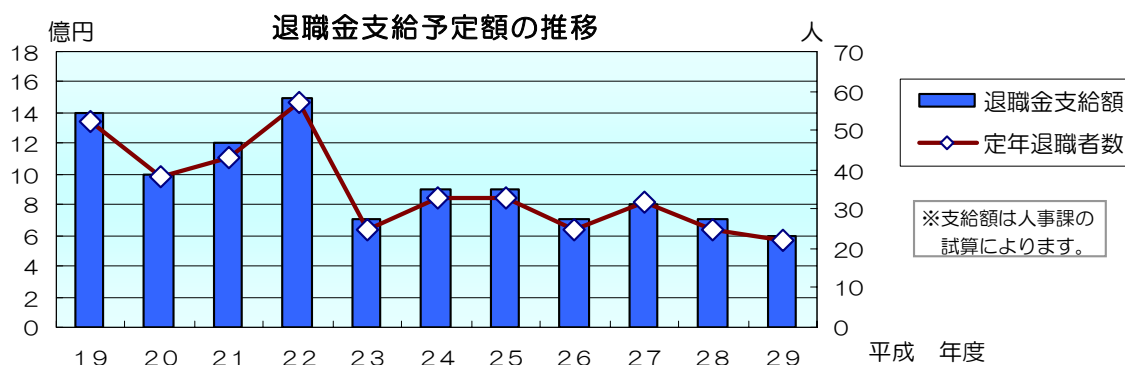
(5) 基金と市債の状況

市債残高から基金残高を差し引いた純債務は、平成17年度の28億円から初めての黒字29億円に転じており、良好な財政状況にあるといえます。



(6) 退職金支給額について

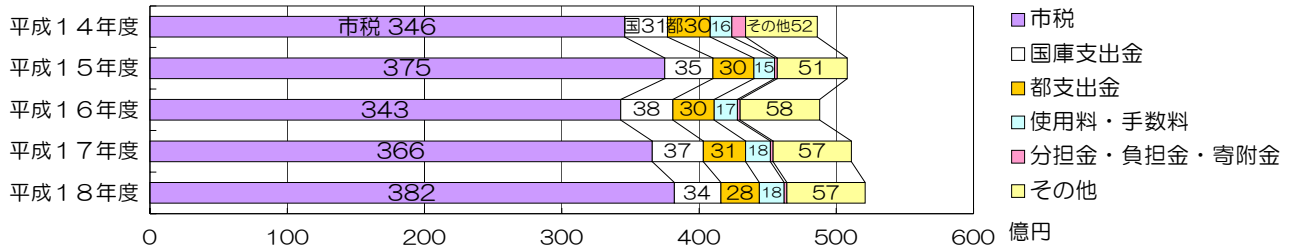
退職者数がピークとなる平成19年度から22年度の4年間で合計51億円程度の退職金の支払いを見込んでいます。一年度の平均的な退職金の支払額は10億円程度ですので、この4年間の負担増はおよそ11億円になります。



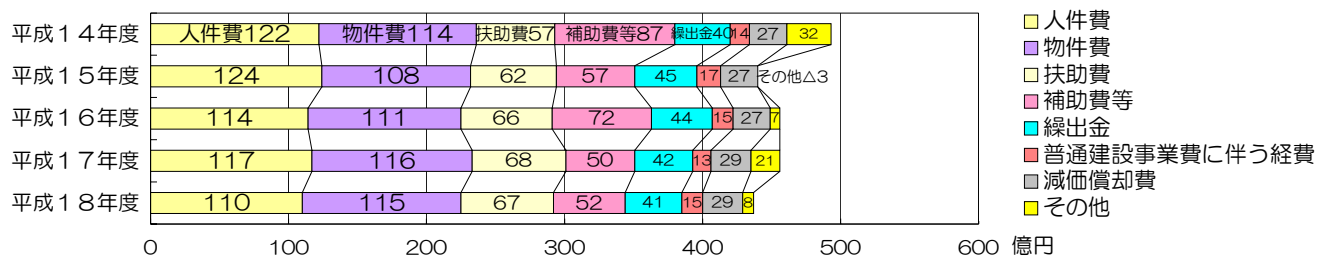
2 行政コスト計算書

行政コスト計算書の収支差額は、1年間に提供されたサービスのコストが当期の収入で賄えているかどうかを示すものです。平成18年度の市民税や固定資産税などの市税は、前年度より16億円増加して、382億円（収入の73.3%）となりました。武蔵野市の平均的な税収入は350億円前後で推移していましたが、国の三位一体改革に伴う税源移譲、税制改正などにより変動が予想されます。

行政コスト計算書の収入の推移



性質別行政サービスコストの推移



3 キャッシュ・フロー計算書

行政サービスに関する収支差額では、税制改正（定率減税の縮減等）などにより個人市民税等の市税収入が大幅に増加し、また職員給与や退職金等の人件費の減少があったことなどにより、108億円に増加しました。資産形成に関する収支差額では、防災安全センター等西棟増築工事が平成18年度にピークを迎えたことや陸上競技場や市道308号線等の用地の購入費が増加したことなどにより△52億円となり、前年度に比べ資金の不足額が10億円増加しました。財務活動に関する収支差額では、市債発行額は9億円で前年度より2億円の減、また基金から17億円を取り崩したものの60億円を積み立てたため、全体としては△57億円となりました。その結果、収支差額合計は△6,100万円となり歳計現金として28億円を翌年度に繰り越しました。

§ II 連結会計の概要について（一般会計、特別会計、公営企業会計、財政援助出資団体）

連結会計 武蔵野市比較連結財務諸表（単位：億円）

		平成17年度	平成18年度	増減
貸借対照表	資産(A)	3,206	3,302	96
	負債(B)	694	692	△2
	正味財産(C=A-B)	2,512	2,610	98
	正味財産比率(C/A)%	78.3	79.0	0.7
行政コスト計算書	行政サービスにかかる収入(D)	825	839	14
	行政サービスコスト(E)	765	756	△9
	収支差額(F=D-E)	60	83	23
キャッシュ・フロー計算書	行政サービス資金収支(H)	102	78	△24
	資産形成資金収支(I)	△51	△63	△12
	財務活動資金収支(J)	△35	△29	6
	当期収支差額(H+I+J)	16	△14	△30
年度末現金残高		98	84	△14

※連結の対象は、一般会計、特別会計、公営企業会計（水道）及び財政援助出資団体（次ページの表参照）です。

1 連結貸借対照表

資産は、一般会計で特定目的基金の増や陸上競技場の用地取得などによる固定資産の増、また、土地開発公社の土地購入による固定資産の増などにより全体で96億円増加しました。

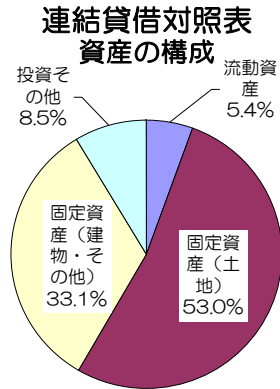
負債は、土地開発公社の長期借入金の増加などがあったものの、一般会計での市債発行の減少による長期借入金の減少や、(財)武蔵野市開発公社における工事費の未払金等の減少があったことなどにより、全体で2億円減少しました。

資産と負債の差額である正味財産は2,610億円となり、前年度と比べて98億円増加しました。これは一般会計の正味財産2,259億円の1.16倍にあたります。

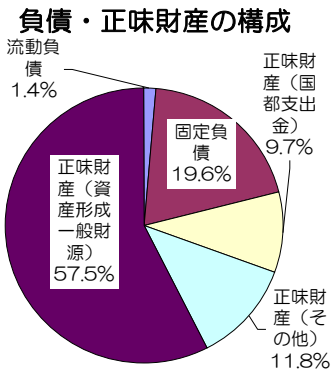
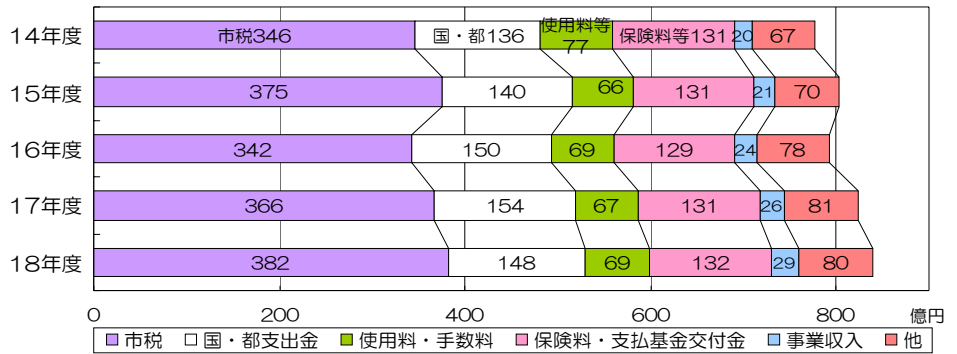
財政援助出資団体	
項目	
出資団体	(財)武蔵野市開発公社
	武蔵野市土地開発公社
	(財)武蔵野市福祉公社
	(財)武蔵野文化事業団
	(財)武蔵野健康開発事業団
援助団体	(財)武蔵野スポーツ振興事業団
	(社)武蔵野市シルバー人材センター
	(福)武蔵野市民社会福祉協議会
	武蔵野市国際交流協会
	武蔵野市子ども協会
(福)武蔵野	

2 連結行政コスト計算書

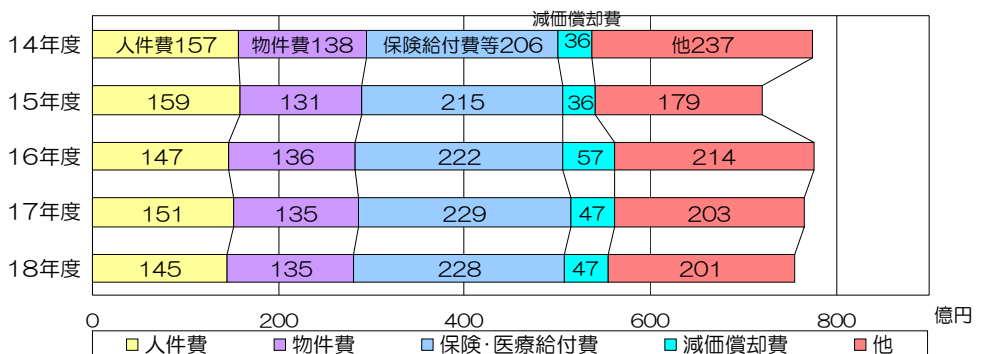
連結会計の行政サービスコストは756億円(前年度比9億円減少)、収入は839億円(前年度比14億円増加)であったため、収支差額は83億円となり、前年度に比べ23億円の増加となりました。収入の増加は、税制改正等による市税収入の増加などによるものです。支出の減少は人件費の減少が大きく、これは一般会計の職員給与退職金などの減少によるものです。



連結行政コスト計算書 収入の推移



性質別行政サービスコストの推移



3 連結キャッシュ・フロー計算書

連結会計の資金収支は、行政サービスで78億円、資産形成で△63億円でした。この資金不足は、借入金や基金の取崩しにより資金調達されています。財務活動(市債の発行・償還や基金の積立・取崩しによる資金の運用・調達)の収支差額は△29億円でした。当期の収支差額合計は△14億円となり、歳計現金84億円を翌年度に繰り越しました。

連結財務諸表からは、武蔵野市と財政援助出資団体が全体として健全な財務状況であり、今後とも持続可能であることを示しているといえます。